

12月
市議会

「バスの減便対策」「街中にベンチを」「学校をなくさないで」14本の請願審査に奮闘

日本共産党町田市議団

2025年第4回定例会が、11月28日から12月23日まで行われ、12月補正予算（第4号）の町田市民病院の安定的な医療サービス事業運営のための20億円の貸付及び、最終日に追加提案された補正予算（第5号）の物価高対応子育て応援手当13億円は、全会一致で可決されました。また、日本共産党市議団が紹介議員となった市民からの請願14件は、継続が2件（議会改選のため実質廃案）、統廃合関連など12件が不採択となりました。

子ども1人
2万円

物価高対応子育て応援 手当支給事業予算化

2025年11月21日に閣議決定された国の「総合経済対策」を受けて、町田市は18歳以下の子どもを持つ家庭に対し、子ども1人あたり2万円の給付金を支給する補正予算（第5号）を最終日に追加提案し、全会一致で可決されました。

児童手当の情報を活用した申請不要の「プッシュ型」を考えているとして、1月下旬から対象者の家庭に支給を受けるか、受けないかの確認書が送付された後、2026年3月末までの給付完了を目指すとしています。町田市独自で2026年4月1日に出生した児童までを対象とします。

全会一致で
可決

町田市民病院への 20億円貸付

一般会計補正予算（第4号）では、昨今の物価高騰や人件費の上昇などにより、市内唯一の公立病院として不採算部門の救急医療や小児・周産期母子医療などを受け持つ町田市民病院が、2025年度末に20億円の純損失が生じる見通しとなり、一般財源から20億円の貸付をおこなう提案がされました。

党市議団は、公立病院として地域住民の医療サービスを支えるという存在意義に照らして必要な対応であると賛成しましたが、公立病院に対する補助金の増額や、コスト高に見合った診療報酬の見直しこそ国に求めるべきと考えます。



市議会議員

とのむら健一

建設常任委員会で2本の請願が審査されました。「バス減便と運転手不足の問題解決を求める請願」について鶴川団地

在住の請願者は、2012年に比べてバスが3分の1に減っているとして、横浜市などのような運転手確保の財政支援を求めました。都市づくり部長は、「重要な課題だ」としながら、財政支援では解決しないので願意に沿えないと答弁。殿村健一市議は、バス交通は公共交通であり、先駆的自治体に学び、市も都も財政支援をすべきと賛成討論。請願は賛成少数で不採択に。

「野津田公園南口転回広場整備工事を一時中断し計画の再考を求める請願」について、請願者は、計画地内から準絶滅危惧種のノカンゾウが発見される中、自然保護活動をしてきた市民や住民の理解を得ない下での工事の推進は問題だと主張。担当部長は、「第二次基本計画」に基づいているので再検討の考えはないと答弁。殿村健一市議は、野津田公園は多摩丘陵の豊かな自然を生かして作られ、市民協働で管理されてきた。市民の要望に沿って再検討すべきと賛成討論。この請願も賛成少数で不採択に。最終日の本会議でも賛成少数で不採択になりました。

困った時は日本共産党へ

無料法律相談のご案内

※会場が変更される場合がありますので、必ずご予約ください。 日本共産党町田地区委員会 ☎ (723) 6312

1月14日(水)

午後2時～5時まで

1月28日(水)

町田市役所3階
共産党会派室で

日本共産党町田市議団ニュース
2025年12月臨時号

発行 日本共産党町田市議団 〒194-0022 町田市森野 2-2-22
電話 042-724-4030 / Fax 042-724-4042 / Mail jcp.machida.shigidan@gmail.com

ウラ面につづく